

東京都豪雨対策基本方針（改定）

平成26年 6月



東京都

はじめに

都では、平成17年9月4日の杉並区・中野区を中心とした時間100ミリを超える豪雨を受け、平成19年8月に「東京都豪雨対策基本方針」を策定しました。この中では、豪雨や浸水被害が頻発している地域を対策促進エリアと位置付け、河川整備、下水道整備、流域対策を推進し、浸水被害の減少など、一定の成果を挙げてきました。

しかし、平成20年8月には、町田市を中心に約300棟、平成22年7月には、板橋区や北区を中心に約800棟が浸水被害を受け、平成25年7月には、世田谷区や目黒区を中心に約500棟が浸水するなど、これまでの計画降雨（時間50ミリ降雨）を超える豪雨により、依然として、浸水被害が発生しています。

そこで、平成25年10月に「東京都豪雨対策検討委員会」を設置し、近年の降雨特性や浸水被害の発生状況、「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について」の提言などを踏まえ、「東京都豪雨対策基本方針」の見直しを進めてきました。今回は、主に、以下の4点について見直しを行い、豪雨へのより一層の対策強化を図ります。

- 1 降雨特性を考慮して目標降雨を設定
- 2 河川・下水道の整備において、「対策強化流域」・「対策強化地区」を設定
- 3 大規模地下街の浸水対策計画の充実など、減災対策の強化
- 4 オリンピック・パラリンピック開催時及び平成36年までの取組の設定

今後、「東京都豪雨対策基本方針（改定）」に基づき、豪雨対策を積極的に推進し、都民が安全に安心して暮らせる東京を実現していきます。



目 次



はじめに

第 1 章 降雨状況や浸水被害状況などの変化	1
1-1 降雨状況の変化	1
1-1-1 増加する豪雨	1
1-1-2 降雨の地域特性	3
1-2 都市構造・社会経済環境の変化	6
1-2-1 市街化の進展	6
1-2-2 資産集積と水害脆弱施設の増加	7
1-2-3 少子高齢社会の進行	9
1-3 浸水被害状況の変化	10
1-3-1 変化している浸水被害	10
1-3-2 一部地域に集中する浸水被害	16
1-3-3 浸水被害の質的变化	17
第 2 章 治水対策の現状	18
2-1 治水対策の目標	18
2-1-1 東京都における総合的な治水対策のあり方について本報告	18
2-1-2 東京都豪雨対策基本方針（平成 19 年 8 月）	19
2-1-3 「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について 最終報告」 と「中小河川における都の整備方針」について（平成 24 年 1 1 月）	20
2-2 対策の実施状況	21
2-2-1 河川整備	21
2-2-2 下水道整備	23
2-2-3 流域対策	26
2-2-4 その他の対策	30
第 3 章 豪雨対策の必要性	35
3-1 現在の治水対策の抱える課題	35
3-1-1 局地的集中豪雨への対応	35
3-1-2 雨水流出率の増加への対応	35

3-1-3	浸水に脆弱な施設における適切な対応	35
3-1-4	各対策間のきめ細やかな連携	36
3-1-5	地域防災力の低下への対応	36
3-2	「豪雨対策」の推進へ	36

第4章 豪雨対策のあり方 38

4-1	基本的視点	38
4-1-1	豪雨対策の目的	38
4-1-2	目的を実現するための基準	39
4-1-3	豪雨対策を実施する上での考え方	40
4-1-4	豪雨対策の見据える期間	41
4-2	豪雨対策の目指すところ	42
4-2-1	豪雨対策の目標	42
4-2-2	公・民の役割分担	45
4-2-3	各対策の役割分担	47
4-2-4	豪雨対策を強化する流域・地区の設定及び目標	51
4-3	具体的な取組の方向性	54
4-3-1	大規模水害を防ぐ「河川整備」の推進	54
4-3-2	内水氾濫を防ぐ「下水道整備」の推進	56
4-3-3	雨水の流出を抑える「流域対策」の強化	59
4-3-4	浸水被害を軽減する「家づくり・まちづくり対策」の実施	62
4-3-5	都民の生命身体を守る「避難方策」の強化	64
4-3-6	オリンピック・パラリンピック開催時及び平成36年までの取組	68

第5章 豪雨対策の実現に向けて 72

5-1	流域別豪雨対策計画の改定及び策定	72
5-2	豪雨対策の推進体制の強化	72
5-3	都民への広報・周知の徹底	72
5-4	継続的なモニタリングの実施	73
5-5	最新技術の反映と開発	73

《付属資料》

1. 東京都豪雨対策検討委員会設置要綱
 2. 東京都豪雨対策検討会設置要綱
 3. 都民からの意見と意見に対する見解
-